

高知県教育委員会 会議録

令和8年5月定例委員会

場所：教育委員室

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 令和8年5月21日（木） 13：30

閉会 令和8年5月21日（木） 14：03

(2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

出席者	教育長	今城 純子
	教育委員	池 康晴
	教育委員	小田 通
	教育委員	森下 安子
	教育委員	町田 美紀
	教育委員	弥勒 美彦

(3) 高知県教育委員会会議規則第8条、第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長（総括）	岡本 幸生
〃	教育次長	濱川 智明
〃	教育次長	蛭子 穰
〃	小中学校課課長補佐	伊吹 竜二（付議第1号のみ）
〃	高等学校振興課長	中島 義文（報告第1号のみ）
〃	特別支援教育課長	谷澤 朗（付議第1号のみ）
〃	教育政策課課長補佐	大前 拓也
〃	教育政策課市町村支援・委員会担当チーフ	山岡 由紀（会議録作成）
〃	教育政策課主査	吉松 昂徳（会議録作成）

(4) 議事の概要及び教育長等の報告の要旨

【冒頭】

教育長	5月定例委員会を開催する。
教育次長（総括）	（提案説明）
教育長	付議第1号は個人の情報を含む議案のため、非公開の取扱いとしたいが、賛成の委員は挙手をお願いします。
各委員	全員挙手
教育長	それでは、付議第1号を非公開の取扱いとする。

【報告第1号 国のグランドデザインを踏まえた「高等学校教育改革実行計画」の策定に向けて
（高等学校振興課）】

○高等学校振興課長 説明

○質疑

小田委員	短期間であったが、非常に丁寧に構想されていると思う。この全ての申請が通ることを願っている。 この3つの類型、4校の取組を見たときに、これまでその学校が取り組んできたことが活かされているということと、高知の地域性が前面に出ているところが良いと思う。 採用されるにあたっては、やはり特色というか、際立ったところが必要だと思う。特に私が良いと思うのは、高知小津高等学校の「防災科学コース」。これは全国的にも少ないので、高知においてこういうコースを設置することは、とても意義があるのではないかと考えている。理数系人材の育成は、今、国家プロジェクトとしてやっていることなので、申請が叶ったら良いなと思う。 もう1つは、類型1の「アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成」、農業高校が拠点校ではあるが、そこに工業や商業などのいろいろな産業系の学校が協力してやるということが、単一ではなく、いわゆるネットワークとして高知県全体で取り組んでいくことが読み取れて、この点も良いと思う。 ネットワークで取り組むことについては、類型1～3の全てに通じているので、拠点校だけでやるのではなく、高知県の高校が全体としてやっていくというシステムができているということと、そこをつなぐ遠隔教育の拠点があるということも良いと思う。 全体に関係のあることだが、これからどういう産業をするにしても生成AIの活用は非常に大事なことだと思うが、そのあたりをどのように関わっていくのか質問したい。
事務局	生成AIの活用については、全ての類型において、デジタル技術を活用した人材の育成ということをそれぞれの申請に書いており、デジタル技術の中に生成AIの活用という言葉も入っているので、これからの人材については、人口が減少する中、生成AIを活用し、いかに少人数で高度な技術を生み出すかというところは、高知県だけではなく全国的にも求められているので、そういった技術も活用しながらこの取組を進めてまいりたいと考えている。
小田委員	この4つの学校だけではなく、それが全県に展開していくことは非常に素晴らしい。生成AIについては慎重論もあるので、リテラシー教育についても、しっかりとこの4校を中心にしながら全体に広げていただきたい。
池委員	類型1の「アドバンスト・エッセンシャルワーカー」の高知農業高等学校について質問させていただきたい。 高知県にとって一次産業は非常に大事であり、柱になるということで、ここに選ばれたということだろうが、説明にもあったように、フードテックの関係で「6次産業化」を目指すという大きな柱を立ててあるが、今の教育課程や教員団では少し難しい部分があると思う。6月下旬にならないと結果は

事務局	分からないが、大きな学科改編、あるいは工業系や商業系の教員の異動なども含めた大きな作業が必要になってくると思うが、その予定や学校規模はどのように考えているのか。今の段階で分かっていることを教えていただきたい。 学校規模等については、まさに今年度策定しようとしている実行計画のほうで議論を深めていただければと考えている。 あと、池委員が言われたように、高知農業高等学校で教えた先生方が、また別の学校に行って、この拠点校だけではなく、別の学校にもその活動を広げていていただく、その力を別の学校でも発揮していただくような人事交流も当然考えているので、そこは拠点校だけの取組にとどまらず、県下全体の専門高校に広がりを見せていきたいという内容で、申請書にも書いているところである。
池委員	高知農業高等学校に新しい学科なりを作っていくことは、まだこれから検討していくことだと思うが、中学生からすると「この学校を出て、どういう職業に就けるのか」ということがとても大切になってくると思うので、審査が通り、学科改編を行う際に、その出口を、県民の皆さんや中学生などに、はっきり分かるようにお示しいただきたい。 それから協力校が、類型１、類型２、類型３とそれぞれあるが、巨額の国費を使いパイロット校を中心に広げていくわけなので、協力校になっていない学校にはどのように広げていく予定なのか、お伺いしたい。
事務局	まずこの基金事業については、拠点校をメインに国費を充てられることとなっているが、拠点校で導入した設備を協力校へ貸して活用することは許されており、そのための経費も計上しているので、まずは協力校についてはそういった形で支援をしていきたいと思っている。 また、協力校になっていない学校についても、今後、国のほうで来年度の予算編成過程で新しい交付金を考えているということを聞いている。その中で、実行計画に基づいたものに、その新交付金を充てることができると聞いているので、まさに今年度策定しようとしている実行計画の中で、全ての高校がこういった高校教育改革を見据えて、令和２２年度までに行っていくのかというところを、ぜひ皆様のご意見、お力を借りたいと考えている。
町田委員	私も、類型１のことになるが、このフードテックやスマート農業というのは、本当にどんどん進化しているものだと思うが、ただ実際、地元の高知を見てみると、これを活用できるところはほとんどないという現状だと思う。できるのは、おそらく大企業の資本が入っている県外の企業だったりというところが現状なので、こういったところに費用をかけて、そういった俯瞰した目を持っている方を育てるのもとても大事だが、一方、地元の現状、足下の現状は、実際は個人事業主であり、こういうところを活用したくてもできないところがほとんどということも必ず見ていただきながら、では地元の方

	とのコミュニティとどういう連携ができるのかであったり、そのフードテッククラブで学びながらも、衰退の一途を辿る現状をどう変えられるかといったところも、ちょっとした人事交流だけではなく、実際にそれを食い止められるのかといったところが、かなり厳しい状態だと思うので、そこもぜひ、こういった方を育てると同時に、意識が持てるようなところに費用を割くことも積極的に取り入れて欲しいと思う。
事務局	まさに町田委員が言われたように、やはり出口をしっかり準備しないといけないというのはあると思う。 この事業については、高校教育改革の実行計画もそうであるが、教育委員会だけではなく、知事部局、それから産業界、大学などの高等教育機関も一緒になって、「オール高知で取り組んでいきましょう」というような計画にしていきたいと思うので、高知県の中のいろいろな力を借りながら、子どもたちにしっかり出口を準備できるような、そんな計画にしていきたいと思っている。ご協力をよろしくお願いします。
弥勒委員	高知丸の内高等学校の「多文化共生コース」については、遠隔授業配信センターと協力するということなので、遠隔授業の機能を活用してということだと思う。資料中に日本語指導と書いてあるので、ここで言っている多文化というのは、主に外国人が対象ということになるのだろうか。キャリア支援とも書いてあるので、外国人を対象として、日本語指導や教科指導を通じて、生徒及びキャリア支援を通じてその保護者も支援の対象として含めるということが、この中には意図されているのか。
事務局	この取組の中身については、今、日本語指導が必要な児童生徒が増えているので、まずはそういった子どもたちを受け入れるための体制を構築するという意味の「日本語指導」や「教科指導」、「キャリア支援」等を実施するというような取組内容にはなっているが、もちろんその子どもたちの親であるとか、高知県にいらっしゃる日本語指導が必要な方など、そういったところも何とかこの学校で支援や教育の実施をしていければと思っている。
弥勒委員	そこから先の方法論までは、なかなか踏み込みができていないのではないかと勝手に想像しているが、日本語指導をする上では、その外国語がきちんと理解できないといけないということにもなるだろうし、そうすると多言語の通訳ができる人だとか、あるいは場合によっては、そういうことはもうAIの翻訳で対応するなど、そのようなことももしかすると考えられているのかと思ったので、少しお聞きした。
事務局	弥勒委員が言われたように、今は機械が発達しているので、外国人同士が1つの機械を通して会話ができるというようなことに、将来的には必ずなってくると思うので、この学校の取組の中で、きっとそういう学びも実践していくのだろうと考えている。

森下委員	多文化共生コースは高知丸の内高等学校だけであるが、多分、幡多地域、安芸地域にも日本語指導が必要な方はやはりいらっしゃると思う。ICTの活用みたいなのも含めて、県下的に広げるというイメージでよろしいか。
事務局	そのとおりである。
森下委員	協力校が「まんが・アニメに関する部活動のある県立高校」だけになっているので、協力校が県全体というのが少し見えづらいと思ったので、もしかしたらここを少し工夫して、幡多と安芸の拠点となる学校があったと思うので、そこを入れても良いのではないかと。
事務局	遠隔授業配信センターというのを、1行目に書かせていただいているが、今、森下委員が言われたように、確かに具体的な学校名があったら分かりやすかったかと思う。
小田委員	委員の方々の話を聞いて思ったが、やはりこの4校の拠点校でやるのだが、協力校もあるし、それが県全体に広がっていくということは、しっかりと県民の方、保護者、生徒に伝えないといけないと思うので、そこはぜひお願いする。見せ方について、資料中の協力校名のフォントが小さいと思うので、もう少しフォントを大きくしてはどうか。それともう1つ、やはりそれが県全体に広がるのだということが伝わるように、下のほうに地図があるが、前面に出しても良いのではないかと。 産学官の取組なので、こういうことをやることによって、高知の地域も良くなるというようなことも必要である。もちろん生徒の将来にもつながるし、それが高知県の地域の将来にもつながるという、Win-Winであるような見せ方も大事だと思った。とても期待している。
教育長	ただ、これから審査がある。国への申請の締め切りが、これまで1期から3期まであり、本県は3期で手を挙げた。ほとんどの都道府県が3期で手を挙げ、手前に挙げていた富山県と静岡県の結果が出ているが、富山県は今の段階で半分の2校だけだった。静岡県は4校とも全て採択されている。 これから審査の段階で、本県も国から説明を求められることもあると思うので、今頂いた意見を基に、また資料の作り方も含め、説明をしていきたい。やはり単なる高校改革だけではなく、高知県の人材がどのように変わっていくのか、求める人材も含めてだが、高知県のためになるというふうに説明をしていきたい。

【付議第 1 号 令和 8 年度高知県教科用図書選定審議会委員の変更に関する議案

(特別支援教育課)】

○特別支援教育課長 説明

○質疑

【非公開】

池委員	【非公開議案】
教育長 各委員 教育長	付議第 1 号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。 全員挙手 付議第 1 号を原案のとおり議決する。

※委員名簿は別紙のとおり

(5) 議決事項

付議第 1 号

原案とおり議決